

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

キシノウエトカゲ

Plestiodon kishinouyei (Stejneger, 1901)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026. キシノウエトカゲ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 210-214.

Citation: Toda, M., 2026. *Plestiodon kishinouyei* (Stejneger, 1901). In: Ministry of the Environment, Japan
(ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 210-214.

キシノウエトカゲ

Plestiodon kishinouyei (Stejneger, 1901)

カテゴリー判定結果		準絶滅危惧 (NT)		①②	
基準 A: —	基準 B: VU 未満	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 【判断理由】 本種が生息する複数の島にイタチが導入されており、それらの島では深刻なレベルで個体数の減少が見られる。その他の島でも断続的に環境変化が続き、本種の生息地は狭まっていることから個体数が減少していることは間違いない。 ②生息条件が悪化している。 【判断理由】 本種の主たる生息環境は海岸植生の周辺、畑地、集落周辺などであり、人の生活圏に隣接しているため、多くの場所で継続的に環境変化がなされ、生息条件は悪化している。特に宮古諸島ではそれが加速しており、今後の状況を注視する必要がある。					
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会					

概要

宮古・八重山諸島の固有種。日本最大のトカゲで、全長 400 mm を超えることもある。産卵期は 5 月頃で、6 月下旬から 7 月上旬にかけて幼体が一斉に出現する。昆虫やミミズなどの無脊椎動物のほか、カエル、小型のトカゲなども捕食する。平地の草原、畑地、開けた二次林などに多い。極めて小さな島を含む、宮古・八重山諸島のほとんどの島に分布する。イタチが定着している島々では個体数は極めて少なく、個体群の存続が危ぶまれている。沿岸部の開発や道路整備に伴う生息環境の消失に加え、交通量の増加に伴う轢死の増加によっても個体数は減少していると考えられる。

基礎情報

【形態】

日本最大のトカゲで、成体は頭胴長 140～172 mm、全長 280～410 mm に達する。体格はがっしりしていて全体的に太短く、成熟したオスは相対的に頭幅が大きくなる。体鱗は胴部で普通 24～26 列。後頭板が前後に 2 分すること、下側の第 2 列側頭板が扇型をしていることで国産の他の同属種と区別できる。背面の地色は淡褐色ないし褐色で、メスはかなり成長しても明色の縦条が残る。幼体はイシガキトカゲなどの幼体と同様、黒に近い黒褐色の地に 7 本の淡色縦条をもつ。尾は青いが、イシガキトカゲより青みが弱く、水色。淡色縦条のうち最外列の左右各 2 本は、前肢の付け根より前で波打ち、不規則に途切れる。

【生活史】

交尾期は 3～4 月、産卵期は 5 月頃と思われ、6 月上旬に草積みの下で卵に寄り添っているメスが観察されている。飼育化で 12 卵を産んだ例がある。6 月下旬から 7 月上旬に頭胴長 40～43 mm ほどの孵化幼体が一斉に現れる。幼体の成長は早く、1 年で頭胴長 90 mm ほどになる。成体は大型の餌も捕食し、甲虫やバッタ類、鱗翅類の幼虫、ミミズといった無脊椎動物のほか、サキシマヌマガエルやイシガキトカゲなどの捕食例もある。普通は、日中に日光浴をして体温をあげてから活動するが、晩夏から秋にかけて夜間に本種が活動しているところが観察されている。

【生息環境】

比較的開けた環境を好み、海岸植生の周辺や畑地、集落周辺の草むらなどで頻繁に見られるが、森林の林縁部や河川沿いなどにも出現する。明らかに平地に多く、溪流沿いの日がよく当たる環境を除き、山地の森林内にはほとんどいないと思われる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地
	【陸域_平地部】草地，田地・畑地，耕作放棄地，住宅地，砂地・礫地，砂浜・礫浜
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(5) 沿岸域，(7) 島嶼地域

【分布域】

与那国島、波照間島、西表島、石垣島、多良間島、伊良部島、宮古島をはじめ、八重山諸島と宮古諸島のほぼ全ての島に分布。中国大陸から台湾西部にかけて分布する *Plestiodon chinensis* と台湾東部に分布する *Plestiodon leucostictus* からなるクレードと姉妹群をなす。

現在の生息状況

【分布域の現況】

1980 年代の初め頃までは多くの島で普通に見られたようであるが、近年では、大神島、池間島、水納島を除く宮古諸島の島々、波照間島などで数が少なく、発見が難しい島もある。宮古諸島の伊良部島、下地島と、八重山諸島の波照間島では個体群が消滅した可能性

も指摘されていたが、最近になって、伊良部島を除く 2 島では現在も個体群が存続していることが確認された。

【生息地の現況】

宮古島、伊良部島、下地島、多良間島と波照間島で本種を見るのが難しくなっているのは、外来種のイタチがいることが主な要因と考えてまず間違いない。宮古島では個体が安定してみられる場所はなく、複数個体がみられた場所でも 2～3 年のうちにその場所では姿を見なくなる。黒島や小浜島などではインドクジャクによる捕食の可能性も指摘されている。そのほか、舗装道路の敷設とそれにとまなう轢死も増えており、生息環境は悪化している。

【個体数の現況】

宮古島、伊良部島、下地島、多良間島、波照間島ではすでに個体数は非常に少ない。特に宮古島を除く 4 島では、本種が目撃される地域も限られ、個体を見つけるのが難しい状態にある。個体数が減少しているのは間違いないが、具体的な値は不明。

存続を脅かす要因

外来種のイタチのほか、ネコによる捕食も個体数減少の主要因と考えられる。波照間島のケースでは、同所的にいるイシガキトカゲは少なくないことから、イタチに関しては昆虫を巡る競合もあるのかもしれない。そのほか沿岸部の開発や道路整備に伴う生息環境の消失と、交通量の増加にとまなう轢死事故の増加によっても負の影響を受けている。

要因の区分：	(過去)	交通事故，捕食（外来種による）
	(現在)	交通事故，捕食（外来種による）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第4次 2019:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第4次 2018:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第4次 2017:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第4次 2015:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第4次:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第3次:	キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouyei</i>	VU
第2次:	キシノウエトカゲ	<i>Eumeces kishinouyei</i>	NT
第1次:	キシノウエトカゲ	<i>Eumeces kishinouyei</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【沖縄県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国指定天然記念物

参考文献

- Brandley, M., H. Ota, T. Hikida, A. Nieto Montes de Oca, M. Ferial Ortiz, X. Guo, and Y. Wang, 2012. The phylogenetic systematics of blue-tailed skinks (*Plestiodon*) and the family Scincidae. Zool. J. Linn. Soc., 165: 163–189.
- Diaz-Sacco, J. J., 2015. Nocturnal activity records of the Kishinoue's giant skink, *Plestiodon kishinouyei*, on Iriomote-jima Island. Curr. Herpetol. 34(2): 172–176.
- 樋上正美・村田行, 1987. キシノウエトカゲの抱卵巣の観察例. Akamata, 4: 1-2.
- 木寺法子・堤ひとみ, 2021. キシノウエトカゲにおける交尾後の追尾行動および闘争行動の野外観察記録. Akamata, 30: 17-20.
- Kurita, K., Y. Nakamura, T. Okamoto, S. M. Lin, and T. Hikida, 2017. Taxonomic reassessment of two subspecies of Chinese skink in Taiwan based on morphological and molecular investigations (Squamata, Scincidae). Zookeys, 687: 131–148.
- 饒平名里美・当山昌直・安川雄一郎・陳 賜隆・高橋 健・久貝勝盛, 1998. 宮古諸島における陸生爬虫両生類の分布について. 平良市総合博物館紀要, 5: 23-38.
- 岡本卓・栗田和紀, 2021. キシノウエトカゲ. 日本爬虫両棲類学会（編）, 新日本両生爬虫類図鑑, pp. 139-141. サンライズ出版, 彦根.
- 太田英利, 1981. 波照間島の爬虫両生類相. 爬虫両棲類学雑誌, 9: 54-60.
- 澤田明・大林恭子・安里瞳, 2023. 波照間島におけるキシノウエトカゲの近年の記録. Akamata, 32: 42-47.
- 田中聡, 2014. 小浜島における両生爬虫類の現状について. 小浜島総合調査報告書, pp. 21-33. 沖縄県立博物館, 那覇.
- 当山昌直, 1976. 繁殖期のキシノウエトカゲの野外観察. 両生爬虫類愛好会誌, 4: 7-9.
- 当山昌直, 2005. キシノウエトカゲ. 沖縄県文化環境部自然保護課（編）, 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）-レッドデータおきなわ-, pp. 121-122. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇.
- 当山昌直・戸田守・田中聡・徳里政哉（編）, 2013. キシノウエトカゲ生息実態調査報告. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第46集. 沖縄県教育委員会, 那覇. 148pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Plestiodon kishinouyei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Plestiodon kishinouyei* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Grassland, Farmland, Abandoned farmland, Residential area, Sandy area/Gravelly area, Sandy beach/Pebble beach
Threat types:	Vehicle collision, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	Nationally Designated Natural Monument.



©谷口晃基

執筆者: 戸田守 (琉球大学)

Author: Mamoru Toda

公表年月: 2026 年 3 月